

## 外務省の渡航記録調査と集落の聞き取り

鈴木 政和 (NPO 法人安房文化遺産フォーラム 副代表)

南房総市千倉町千田に住む私は、親戚のおじいさんがアメリカに行っていたと聞いたことがあり、近所の子の神棚に大きなアワビが飾ってある。大場俊雄先生の著書を読み、改めてこの歴史に興味をもち、2000年頃から調査を始めた。小谷源之助・仲治郎の出身は南房総市白浜町根本の金澤屋だが、仲治郎が帰国後に建てた家や、ハリウッド俳優・早川雪洲の生家は私の家から徒歩1~2分の距離である。私は集落で聞き取りをしたり、外務省外交史料館の渡航記録を調べたりしながら、収集した資料やNPOが制作したパネルなどを自宅に展示し、「まちかどミニ博物館」として公開している。

また、仲治郎の娘・美枝の夫は大島四郎といい、回想録『安房の潮左為〜碧水小谷仲治郎一族』を書き残した。なかには誤解や思い込みも散見されるが、重要な証言録である。さらに仲治郎宅を解体する際、NPOの愛沢伸雄代表の助言を受けて襖8枚を丁寧に剥がしたところ、大量の古文書が見つかった。おもに明治期の手紙や金澤屋の勘定書などであり、そのうちの約530枚を解読した。NPOメンバーは人材豊富であり、崩し字を読める人、活字に打ちこむ人、目録を作って整理する人などがある。そして愛沢先生が、千切れた古文書のつながりを見つけて調査を深め、これまで分からなかった渡米前のことなどが明らかになり、論文を書いた。

まず、はじめに紹介したいのが日米友好事業のシンボルとされている「万祝」である。万祝とは豊漁などで配られる漁師の晴れ着であり、背中に日米の国旗が交差し、裾には器械潜水のヘルメットとアワビの図柄と、IDE&CO Monterey USAと染められている。源之助・仲治郎が渡米初期に組んで採鮑・乾鮑事業を行った井出商会が制作したものである。

現在、館山市の渚の博物館と、米国モントレイのJACL(日系アメリカ人市民同盟)ヘリテージセンターが所蔵する2点が確認されている。

2006年にモントレイへ寄贈された万祝は、初期に渡航したダイバー栗原石松、屋号:紋九郎の家に伝わるものだった。ここには、井出商会から森薬舗へ事業継承された当時の社用箋に書かれた手紙も残っている。

戦後50年記念の平和事業として、NPOが中心になって日米交流が開催された。堂本暁子千葉県知事と米国の歴史学者サンディ・ライドン氏の英語対談も行われた。翌年にはモントレイで交流事業が開かれ、白浜の海女2人が潜りを披露し大喝采を浴びた。

こうした交流を経て、源之助・仲治郎の偉大な業績を日米で確認し伝承するために、平和祈願のシンボルとして、この万祝をモントレイの博物館に寄贈してもらえないかと思った。私は栗原家に日参し相談したところ、当主の栗原治郎松氏は私の願いを聞き入れて、寄贈を快諾してくださった。ここに改めて感謝を述べたい。

小谷源之助が水産業調査の目的で外務省から旅券が発行されたのは1897(明治30)年9月9日である。弟の小谷仲治郎は漁業製造監督、同行した3人の海士(安田大助・安田市之助・山本林治)は漁業を目的とし、同年12月3日に千葉県から発行されている。

安田大助宅に残った万祝は傷みが激しかったため、日米国旗と裾の図柄部分のみ額装して保存されている。

3年後に帰国した安田市之助は、仲治郎の滞米9年の間に妻・美わの相談相手として面倒をみるように依頼するほど信頼された人物である。山本林治は、千田生まれだが平磯の山本家に養子に入り、海士として働いていた。

モントレイの寒流では素潜りが厳しかったため器械潜水導入を決め、翌 1898（明治 31）年 9 月 9 日の旅券で千田の男海士 3 人（栗原石松・山口次郎松・早川千之助）が渡米している。栗原石松は先述の万祝の持ち主だが、長男の岳父が山口次郎松、娘の夫は川上長松、ともに渡米した潜水夫仲間である。早川千之助は帰国後には鯨船の砲手だったといわれる。

器械潜水によるアワビ漁は想像を超える採取量であったと推測できる。このため潜水夫を補うため、山本林治は一時帰国して渡米者を勧誘し、1900（明治 33）年に 6 人（山本梅吉・在原良之助・鈴木次郎松・渡辺勘治・高橋春治・早川音次郎）を伴って再渡米している。

第 3 陣のひとり、山本梅吉は山本林治の妻の弟であり、実子がなかったため養子としている。24 歳で渡米し、一時帰国しているが、再渡航後の 1914（大正 3）年 11 月に帰国している。梅吉を心配した妻いせが渡米するが、2 人はすれ違いになってしまったという。1906（明治 39）年サンフランシスコ大地震の時、梅吉の妹よしに出したお見舞いの礼状が存在する。この手紙で、山本梅吉は高齡の義父（義兄）夫婦を心配し帰国を考えるが、帰国しても仕事が無いことから後 2～3 年頑張ろうということが書かれている。妹よしは、鈴木次郎松と既に結婚している。

在原良之助は山本林治の義兄にあたり、妻おとが林治の妻くめと梅吉の姉である。渡航費用のために田畑を売って工面し、帰国後に買い戻している。

鈴木次郎松も山本林治の義弟であたり、妻よしは梅吉らの妹である。ポイントロボスでエンジニア（機関士）として働く。源之助の没後、事業を継承した小谷省三がカーメルハイランドの消防署長を兼任していたため、裁判所等の関係先訪問時はいつも次郎松が同行し、事業を支えていた。1930（昭和 5）年に千田の長性寺で行われた A・M・アーレンの追悼供養の写真には、長男が名代として参列しているが、翌年に没している。モントレイ日本人会の参事員を 30 余年務

め、帰国時に表彰されている。

渡辺勘治は、妻いちが山本林治の妹にあたる義弟である。勘治と高橋春治は、一時帰国後、1915（大正 4）年に再渡航の際、小谷源之助がサンフランシスコ総領事に 2 人の渡米要請が提出されている。

源之助が日本にいる仲治郎に、ダイバー不足のため送り込むようにと要請する手紙の下書きが見ついている。仲治郎自筆の履歴書には、ポイントロボス缶詰会社の共同経営者・七浦漁業組合長と記されている。組合として器械潜水夫の訓練・育成をし、組合員の収入確保の拡大と渡米要員の養成をしていたと推測される。

七浦村収入役であった早川音次郎は、山本林治の呼びかけで渡米を決意し、職を辞した。帰国後、助役を経て、明治 42 年に七浦村村長となる。1907（明治 40）年に千田の長性寺でアーレン夫人サティの追悼法要が行われた際、集合写真の前列右端が音次郎、左端が仲治郎である。

早川音次郎は、暴れん坊の弟・金太郎（後の早川雪洲）が海軍大将の夢破れて自殺未遂し、高塚山不動に 1 ヶ月こもったことを心配し、仲治郎に相談した。源之助のもとで働くことを勧められ、金太郎は 1907（明治 40）年に学術研究という目的の旅券で渡米した。しかし過酷さに逃げ出し、シカゴ大学へ入学したといわれる。詳しくは大場俊雄氏の著書『早川雪洲 房総が生んだ国際俳優』を参照されたい。

以上が初期の渡航者である。

先ず先に渡米したのは、水産伝習所卒業の仲治郎ではなく、なぜ源之助だったのか。仲治郎は長男義男が 1 歳で、妻美わは懐妊中であった。しかも婿養子先の平野家から離縁し、渡米直前に旧姓の小谷に戻っている。そこで、独身で身軽な兄・源之助が先行したのではないかと推察する。

源之助は、慶應義塾幼稚舎や商法学校、東京学館を卒業後、家業を手伝いながら各地を回っている。新潟県佐渡島で採鮑・加工業を興し成功していることが古文書から分かっている。そのと

きに知り合ったと思われる田中リンと、渡米後の1899（明治32）年に本人不在のまま婚姻届けを提出し入籍している。しかし1901（明治34）年にリンの病が悪化し、源之助は一時帰国しているが、看病の甲斐もなく1902（明治35）年に佐渡の実家で亡くなってしまった。

両親は、独り身になりアメリカへ行く息子源之助を心配したであろう。3か月後の12月に鴨川の医師・田代謙齋の次女ふくと結婚している。ふくは前年に父を亡くし、姉が結婚したばかりで、先行き不安だったと思われる。この縁を結んだのは、遠縁にあたる資生堂創業者の福原有信（館山市松岡出身）ではないかと推測される。

源之助は1903（明治36）年3月に再渡米している。1904（明治37）年、妻ふくと長男英雄が渡米する際、源之助の弟小谷勝良とともに渡航したのが、神戸村犬石の左官屋の宇山與助であった。旅券の渡航目的は、勝良は学術研究、宇山は「ふくの渡米保護」と記されている。福原有信

の生家も神戸村であり、宇山は小谷清三郎と福原のふたりから信頼を寄せられた人物である可能性が高い。

今回報告したのはほんの一部である。1919（大正8）年から4度渡航している安田善次は、大量の写真やネガフィルム、渡航チケットや書類等が大量に残されており、画家・小圃千浦の息子の希美雄が画いた肖像画もある。渡辺勘治の長男・渡辺太重郎はアメリカに永住したが、その子孫にあたる渡辺光子さんのお宅では朝香宮訪問時のパノラマ写真がある。金澤屋の親戚筋にあたる根本の土佐静子さん宅には、源之助の葬儀のパノラマ写真がある。ほかにも多くの皆さんにご協力をいただき、感謝を申し上げたい。

それぞれの潜水夫と家族に様々な物語がある。異国で活躍した先人の姿から共生社会のあり方を学び、語り継ぎ、平和な社会に寄与することを願っている。

#### <渡航記録調査リスト>

| 氏名     | 屋号    | 住所    | 齢  | 旅券発行日          | 渡航目的    | 旅券返納日<備考>       |
|--------|-------|-------|----|----------------|---------|-----------------|
| 小谷 源之助 | 金澤屋   | 根本村   | 30 | 1897(M30).9.9  | 水産業調査   | 1901(M34).10.31 |
| 小谷 仲治郎 | 平右衛門  | 七浦村千田 | 25 | 1897(M30).12.3 | 漁業製造監督  | 1907(M40).3.3   |
| 安田 大助  | 佐平治   | 七浦村千田 | 41 | 1897(M30).12.3 | 漁業      |                 |
| 安田 市之助 | 五右衛門  | 七浦村千田 | 41 | 1897(M30).12.3 | 漁業      | 1901(M34).9.9   |
| 山本 林治  | 太左衛門  | 七浦村平磯 | 39 | 1897(M30).12.3 | 漁業      |                 |
| 山口 次郎松 | 五郎左衛門 | 七浦村千田 | 41 | 1898(M31).9.9  |         | 1901(M34).9.9   |
| 栗原 石松  | 紋九郎   | 七浦村千田 | 46 | 1898(M31).9.9  |         | 1901(M34).9.9   |
| 早川 千之助 | 弥惣兵衛  | 七浦村千田 | 34 | 1898(M31).9.9  |         | 1901(M34).9.9   |
| 山本 林治  | 太左衛門  | 七浦村平磯 | 41 | 1900(M33).2.2  | 再渡航・漁業  |                 |
| 山本 梅吉  | 太左衛門  | 七浦村平磯 | 24 | 1900(M33).2.2  | 漁業      |                 |
| 在原 良之助 | 治郎兵衛  | 七浦村平磯 | 33 | 1900(M33).2.2  | 漁業      |                 |
| 鈴木 次郎松 | 佐左衛門  | 七浦村平磯 | 22 | 1900(M33).2.2  | 漁業      |                 |
| 渡辺 勘治  | 太右衛門  | 七浦村千田 | 28 | 1900(M33).2.2  | 漁業      |                 |
| 高橋 春治  | 久四郎   | 七浦村千田 | 27 | 1900(M33).2.2  | 漁業      | 1901(M34).8.13  |
| 早川 音次郎 | 与一郎   | 七浦村千田 | 31 | 1900(M33).2.2  | 漁業      | 1904(M37).5.2   |
| 小谷 源之助 | 金澤屋   | 根本村   | 36 | 1903(M36).3.17 | 水産業     |                 |
| 小谷 ふく  | 金澤屋   | 根本村   | 22 | 1904(M37).8.16 | 夫と同居    | 1905(M38).215   |
| 小谷 英雄  | 金澤屋   | 根本村   | 1  | 1904(M37).8.16 | ふくの長男   |                 |
| 小谷 勝良  | 金澤屋   | 根本村   | 16 | 1904(M37).8.16 | 学術研究    |                 |
| 宇山 與助  | 音右衛門  | 神戸村犬石 | 41 | 1904(M37).8.16 | ふくの渡米保護 |                 |

|        |       |        |    |                |          |                 |
|--------|-------|--------|----|----------------|----------|-----------------|
| 小谷 ふく  | 金澤屋   | 根本村    | 23 | 1905(M38).4.27 | 夫の事業補助   |                 |
| 川上 長松  | 藤右衛門  | 七浦村千田  | 29 | 1906(M39).11.8 | 漁業従事     |                 |
| 山口 豊松  | 五郎左衛門 | 七浦村千田  | 29 | 1907(M40).2.20 | 漁業従事     |                 |
| 小谷 寿一  | 金澤屋   | 根本村    | 29 | 1907(M40).4.18 | 森菓舗雇入    |                 |
| 早川 金太郎 | 与一郎   | 七浦村千田  | 21 | 1907(M40).6.28 | 学術研究     | <早川雪洲>          |
| 山本 梅吉  | 太左衛門  | 七浦村平磯  | 36 | 1912(M45).4.8  | 潜水事業     | T3.11.帰国        |
| 鈴木 次郎松 | 佐左衛門  | 七浦村平磯  | 34 | 1912(M45).4.8  | 潜水事業     |                 |
| 川上 長松  | 藤右衛門  | 七浦村千田  | 36 | 1914(T3).3.17  | 再渡航      |                 |
| 山口 豊松  | 五郎左衛門 | 七浦村千田  | 36 | 1914(T3).3.17  | 再渡航      |                 |
| 宇山 又吉  | 音右衛門  | 神戸村犬石  | 18 | 1914(T3).3.17  | 父の呼び出し   |                 |
| 山本 いせ  | 太左衛門  | 七浦村平磯  | 33 | 1914(T3).10.8  | 夫の呼び寄せ   | <山本梅吉の妻>        |
| 在原 善太郎 | 治郎兵衛  | 七浦村平磯  | 19 | 1914(T3).11.20 | 父の呼び寄せ   |                 |
| 渡辺 勘治  | 太右衛門  | 七浦村千田  | 43 | 1915(T4).8.26  | 潜水業研究    |                 |
| 高橋 春治  | 久四郎   | 七浦村千田  | 43 | 1915(T4).8.26  | 潜水業研究    |                 |
| 渡辺 太重郎 | 太右衛門  | 七浦村千田  | 18 | 1919(T8).3.14  | 父の呼び寄せ   |                 |
| 平野 義雄  | 平右衛門  | 七浦村千田  | 23 | 1919(T8).8.8   | 会社用      | 1928(S3).4.10   |
| 早川 菊松  | 弥惣右衛門 | 七浦村千田  | 29 | 1919(T8).8.8   | 会社用      |                 |
| 安田 善次  | 五右衛門  | 七浦村千田  | 26 | 1919(T8).8.8   | 会社用      | 1926(T15).10.26 |
| 鈴木 駒吉  | 藤兵衛   | 七浦村千田  | 28 | 1919(T8).8.8   | 会社用      |                 |
| 川上 寅吉  | 藤右衛門  | 七浦村千田  | 17 | 1921(T10).8.11 | 父の呼寄/漁業  |                 |
| 渡辺 勘治  | 太右衛門  | 七浦村千田  | 50 | 1922(T11).11.6 | 再渡航/採鮑潜水 |                 |
| 小谷 徹   | 平右衛門  | 七浦村千田  | 25 | 1924(T13).2.28 | 修学       | 1936(S11).5.24  |
| 高橋 春治  | 久四郎   | 七浦村千田  | 55 | 1927(S2).6.8   | 再渡航      |                 |
| 平野 義雄  | 平右衛門  | 七浦村千田  | 31 | 1928(S3).1.16  | 再渡航      | 1937(S12).6.10  |
| 安田 松治  | 三治郎   | 七浦村千田  | 30 | 1928(S3).2.4   | 採鮑業      |                 |
| 早川 松治郎 | 清十郎   | 七浦村千田  | 25 | 1928(S3).2.4   | 採鮑業      |                 |
| 高橋 源之助 | 源助    | 七浦村千田  | 26 | 1928(S3).2.4   | 採鮑業      |                 |
| 安田 善次  | 五右衛門  | 七浦村千田  | 35 | 1928(S3).7.3   | 再渡航      |                 |
| 安田 善次  | 五右衛門  | 七浦村千田  | 36 | 1929(S4).2.26  | 再渡航      |                 |
| 早川 松治郎 | 清十郎   | 七浦村千田  | 29 | 1932(S7).4.19  | 潜水業      |                 |
| 三津田勘五郎 | 惣左衛門  | 七浦村千田  | 42 | 1932(S7).4.19  | 潜水業      |                 |
| 高橋 源之助 | 源助    | 七浦村千田  | 31 | 1932(S7).4.19  | 潜水業      |                 |
| 安田 善次  | 五右衛門  | 七浦村千田  | 39 | 1932(S7).4.19  | 潜水業      | 1937(S12).6.10  |
| 安田 松次  | 三治郎   | 七浦村千田  | 29 | 1932(M7).4.19  | 潜水業      |                 |
| 佐野 初次  |       | 長尾村根本  | 30 | 1898(M31).2.3  | 水産事業取調べ  |                 |
| 佐野 ひで  |       | 長尾村根本  | 28 | 1903(M36).1.29 | 夫と同居のため  | <佐野初治の妻>        |
| 高木 兼次郎 |       | 千歳村安馬谷 | 44 | 1903(M36).3.27 | 佐野ひで保護   |                 |

【追記】 米軍の本土侵攻計画「コロネット作戦」では、ターゲットの中心が館山を指している。このために作成された「日本各県マニュアル」の千葉県版の序文には、「このマニュアルのもとになったデータは1945年7月1日現在、モンレー駐屯地で入手した情報を含む」という注目すべき一節がある。また敗戦直後には、館山に米占領軍が上陸し、本土唯一の直接軍政が敷かれており、日系兵が加わっていたことも分かっている。日系二世による陸軍情報部 MIS という秘密諜報部隊はモンレー近郊に開設され、占領統治の支援活動をしていたという。これらが館山の直接軍政にどう関わっていたかは調査途上にある。